

教務だより

2012年10月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

あきらめないこと、そして努力すること

茗溪塾塾長 宇野 雅春

残暑もいつしかおさまりをみせ、如何にも秋らしい毎日が続くようになりました。受験勉強も内申対策を含めて、佳境にさしかかっているというところでしょうか？意外と合唱コンクールがあったり、体育祭があったり、文化祭や修学旅行まで、受験学年なのに受験勉強の妨げとなる行事が続く、気持ちは焦るのに勉強は空回りしているということがよくあります。模試の成績が出たりすると動揺することも多く、自信を失ったり、受験が怖くなったりするのもこの頃です。

受験を不安に思うということは、悪いことのようにですが、むしろ現実認識が出てきたという点では評価してもいいことなのです。不安から逃れたいという気持ちが働きますが、ここはそれをしっかりと受け止めて出来ることを積み重ねていきましょう。

学校行事が立て込んでくると、真面目な生徒はやはり、全てきちんとやろうとして苦しむことになります。委員会などの仕事とか、合唱コンクールの練習とか、吹奏楽部などはコンクールがあったりします。塾での勉強とも重なったりすると、「何で自分だけこんなに大変なのか？」と悔やんだり、自分のペースで勉強をきちっとやっという友達や勉強優先で学校行事には非協力的な人を恨んだりします。こういう生徒は根が真面目なので、目の前のことをきちんとしていきたいということなのですが、これも決して悪いことではありません。ただ、後で悔やむことがあります。やるべきことを一生懸命やっているのになぜ後悔するのでしょうか？

それは、結局、ベストを尽くせなかったという点にあります。いろんな忙しいことがありながら、やりこなす生徒もたくさんいることに後で気付くからです。つまり、まだやれるのに勉強が疎かになる「理由」に逃げていたということなのです。どんなケースでも、自分の弱さがそこには見えてくるのです。

受験生なので、勉強が出来なくなるということはあってはならないことなので、勉強阻害要因が出てきたら、どうやってそれを克服するかを考えるべきなのですが、「〇〇だから無理」と決めつけてしまいます。

本当にそうなのか？ということですが、大人になるともっと差が出てきます。いろいろな困難を持ちながら、努力でカバーする人と、少しでも困難なことが出てくると「出来ない！」とあきらめる人です。まわりを見回してみましょう。たくさん例があるはずですが。

その中で、「受験勉強」という困難は実はそれ程重くないことなのです。自分の義務や責任を果たすと同時に「優先順位」を決めて、無駄なことを省くことが必要です。

「大変！」「辛い！」「自分だけ忙しい！」人も、生活を見直してみると、ゲームをしていたり、机にむかってもほとんど余計なことを考えてボーっとしていたり、授業では居眠り、「なんでこんなに大変なの…あのせいだ！このせいだ！あいつのせいだ！…」考えて歯ぎしりしている時間が、バカに出来ないほど多かたりするのです。

受験が近づいてきます。あきらめずに何とかやろうという努力をしていきませんか？世の中にはもっとすごい「奇跡」のようなことが、実はたくさんあるのです。

志望校に合格するという事は、その中では小さなハードルのはずです。必要なことは乗り越え、努力すること…。塾が出来るのはそのバックアップに過ぎません。

自分がどう変わるか？受験は「自分との闘い」です。大人も日々そこに直面します。

ともに、そこをやり抜くことは実はとても楽しいことなのです。頑張る我が子を見られる親は幸せです。頑張る生徒を見られることが、先生にとっては幸せなのです。いろいろなレベルがあっても良いと思います。一步前に進めること。それが合格につながります。